佳作　（高学年の部）

笑顔のおくりもの

大阪府　関西創価小学校　五年
武田　美紀子

「ガチャ」とドアの開く音がして、お母さんが部屋に入ってくる。ふざけて「変顔」をしていたお父さんの顔が、何もなかったような顔になる。見た目が「まじめキャラ」のお父さんは「変顔」をお母さんに見られるのがはずかしいらしい。でも私たちを喜ばせようと、ものまねをしたり「変顔」で笑わせたりそんな一面もある。

お父さんは、たくさん遊んでくれる。うでずもうやクイズ、オセロなどもしてくれる。長いお休みの時には、プールに行ったり、遊園地に行ってたりもしてくれる。本当は、お仕事が終わってくたくたのはずなのに、にこにこ笑顔で遊んでくれる。

ある日、私は聞いてみた。

「お父さん、つかれてないの。」

そうすると、お父さんはこう言った。

「つかれていても、子どもの笑顔を見たら、つかれがふっとぶんだよ。」

私は、びっくりした。子どもの笑顔でつかれがとんでいくなんて本当におどろきだ。私は、その日をきっかけに笑顔を見せることで、親孝行しようと決めた。

私が五才の時四十度近い高熱が数日続いたことがあった。病院でインフルエンザの検査をしてもらったが、陽性の反応がでず、初め原因が分からず、家族みんなが心配した。発熱から三日目の真夜中、あまりの高熱にうなされている私を心配して、お父さんが夜間救急病院に連れて行ってくれた。私は覚えていないが、星がとってもきれいな夜だったそうだ。はく息の白い中、車をおりてお父さんと目が合った時に、私が、ぽつりと

「パパと二人のデートは久しぶり。」と言ったそうだ。その時期は、忙しくてあまり家族との時間がとれなかったので、聞いたお父さんは、ポロンと涙がこぼれたということを後から聞いた。私はお父さんの背中に背負われて

「病院についたからもう安心だよ。ねてていいよ。」

と言われたことだけを覚えている。ふだん仕事で忙しくしていても、私のこと、そして家族みんなのことを心配してくれていたことに今は、申し訳ない気持ちとありがとうの感謝の気持ちでいっぱいだ。

お父さんは、学校の先生をしていて家に持ち帰る仕事も多い。いつも夜おそくまで仕事をしている。すいみん時間が少なくて、体をこわさないか心配だ。でも、どんなに忙しくても、私がその日のできごとを話すと、

「へぇ。それは楽しかったね。」と言って、にこにこしながら聞いてくれる。私は、そんなお父さんが大好きでとてもそんけいしている。日ごろ顔を見て、なかなか言えないが、いつまでも健康で長生きしてほしい。そして私も「笑顔のおくりもの」を続けながら、お父さんを大切にしていこうと思う。そして家族の宝の時間をつくっていきたい。